



わくわく園だより No.17
R5年8月4日(金) 文責: 牧野

「こども園は関係ない?という問題ではない!」

今年4月に実施した全国学力・学習状況調査(対象小6・中3)の結果が8月1日に公表されました。北海道は相変わらず全国平均を下回りましたが、その差は縮まったことから道教委は喜んでます。しかし、まだ課題があります。

特に中学校の英語で気になったのが、無解答率の高さです。「書く」分野では3割、「話す」分野では、「0点」が6割以上もいたのです。何も書かない、話さないのは、自分の考えを伝えようとする意欲が育っていない。考えること自体を放棄してしまっているのです。

国語では、目的に応じ複数の情報を関連付けて書く問題の正答率は3割以下で課題が見られました。複雑化する現代では、考えをまとめた書く能力が必要になってきます。

算数・数学では、身の回りの事象について数学的な見方、考え方で捉え直させる問題が多くありました。「 $66 \div 3$ 」という計算の筆算の意味を問う出題の正答率は47.8%にとどまりました。筆算の計算はできても、その操作が何をしているかの理解が甘いと解けない問題です。

全国学力テストの問題は、ただ計算をしたり、漢字を書いたりするものではありません。

なぜこのような問題が出されるかという、これからの社会を生き抜いていくために必要なことだからです。これは小学校高学年、中学生になってから、すぐに身に付くものではありません。こども園のときからの積み重ねが必要なのです。



それでは、こども園でも勉強するのですか? こども園では「遊び」(活動)が「学び」(学習)なのです。学習の基礎基本である「関心・意欲・態度」を育てています。わくわく園で育った子は、少なくともテストで無解答することはないようにします。

先生の「やいがい」とは、子どもの笑顔と…。



8月1日 参観日(7月開催)の「感想メッセージ」(全学級分)が回覧されました。副園長は1時間かけて全て読み、保護者の皆さんは、子どものこと、園のこと、先生方のことをよく見てくれている。お褒めの言葉もたくさんあって、感動して涙を浮かべていました。仕事の「やいがい」とは、どんなに辛くて大変なことがあっても、達成感や充足感、張り合いがあって、やってよかったと思う気持ちです。「感想メッセージ」は、先生方の「やいがい」を高めました。ありがとうございました。

～・～心がホットステーション～・～

「園長先生、見て、見て、跳び箱4段跳べるよ!」
「すごいね～。6段跳んだら、小学校に行ってもいいよ!」
「本当? う～ん…、今はちょっと無理かな?」

運動神経がよくても跳び箱が跳べない子
がいます。恐怖心があると跳べません。
跳び越すには、腕で跳び箱を押す感覚が
大事です。必ず跳べるようになります。

【先生方は勉強中】 夏休み期間中は、研修会、研究大会シーズンです。幼児教育の充実とこども園で育った力を小学校にどうつなげていくか、国の重要な課題になっています。硯見先生は、全国(福岡)と全道国公立幼稚園・こども園協議会の研究大会(札幌)に参加しました。他の先生方も大空や滝上の研究会に参加して一生懸命勉強しています。8月25日は、小中学校、高校の先生にも参加してもらって本園で研究会を開催します。

・8月7日(月)から 8月11日(金)までの予定・夏休み、お盆期間中は特に行事はありません。

9日(水) 矢口副園長出張でいません。

11日(金) 祝日「山の日」 *12日から15日までお盆保育に入ります。

